

保護林名：尾鈴植物群落保護林

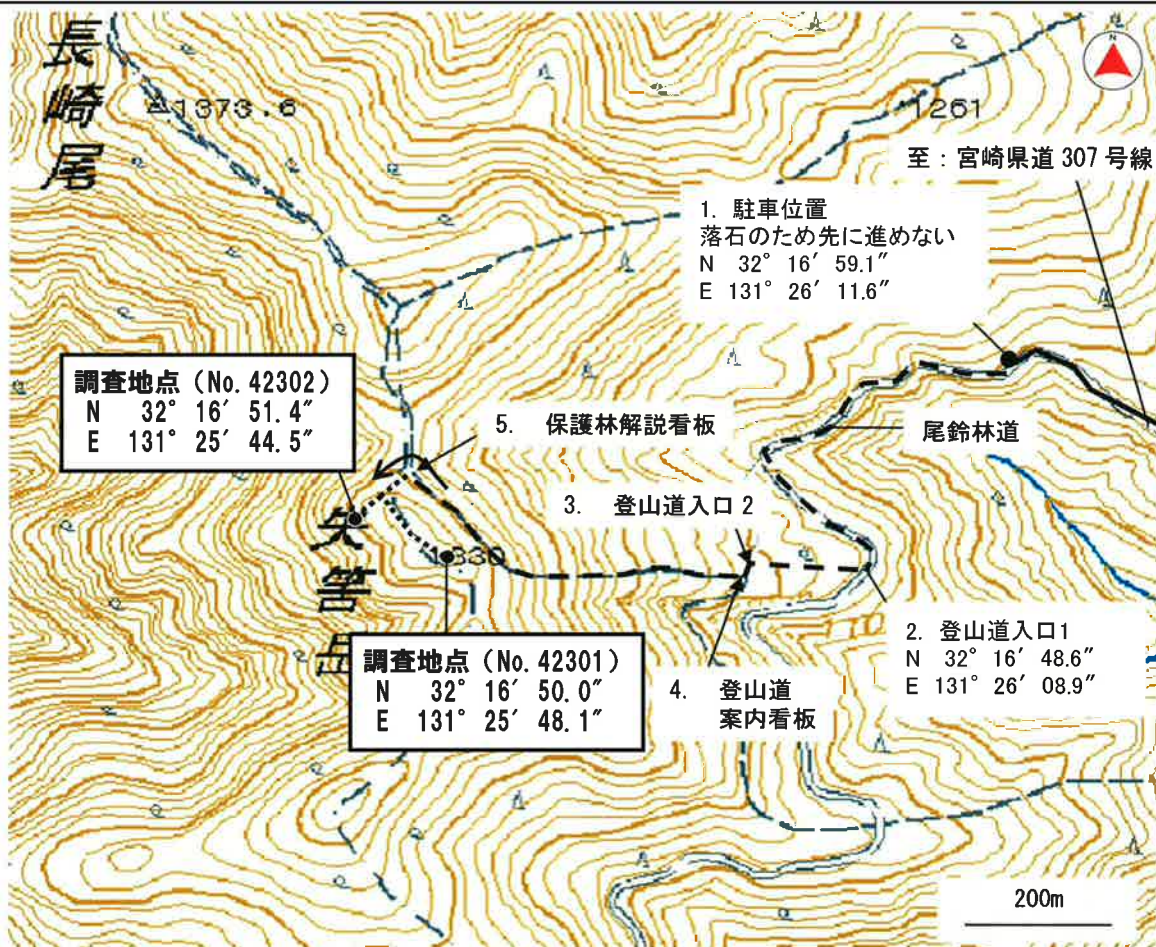
整理番号 植物-23

調査項目 森林調査

調査年月日 2010年10月17日、25日

調査地点：42301~42302

詳細位置図



1. 駐車位置



2. 登山道入口1 (林道から伐採地へ入る)



3. 登山道入口2
伐採地に入ってしばらく進むと左方向に道が続く



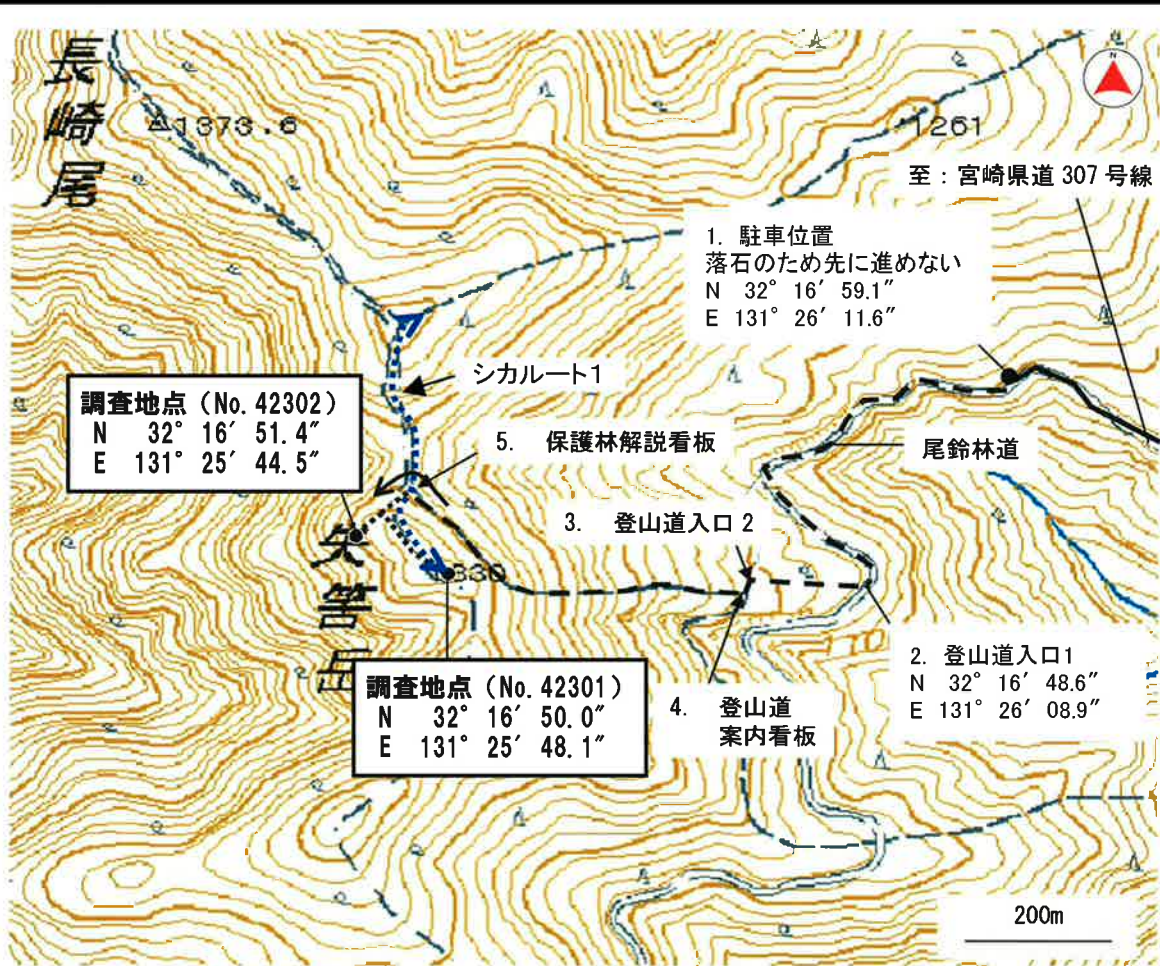
4. 登山道案内看板



5. 保護林解説看板

保護林名	尾鈴植物群落保護林	整理番号	植物-23
西都児湯	森林管理署	都農	森林事務所
ルート番号	1		
調査年月日	平成22年 10月 17日		
ルート起点の緯度	32° 16' 50.0"	ルート終点の緯度	32° 17' 03.6"
経度	131° 25' 48.1"	経度	131° 25' 47.8"
ルートの距離	600 m		

ルート図(1/20,000程度)



1. 駐車位置
2. 登山道入口1 (林道から伐採地へ入る)
3. 登山道入口2
伐採地に入ってしばらく進むと左方向に道が続く



4. 登山道案内看板
5. 保護林解説看板

(3) 調査結果(毎木調査・植生調査・植物相調査)

①各プロットの概況

■プロットNo. 42301

プロットNo. 42301は、矢筈岳の南向き斜面(標高1300m)に位置する。斜面傾斜は26度で、比較的緩傾斜なやせ尾根となっている。

林冠には、大径のモミの他、アカガシや保護対象樹種のコウヤマキ等がみられた。亜高木層には保護対象樹種のコウヤマキが優占する他、シカの忌避植物であるアセビも多くみられた(表-3-137)。低木層にはコバノミツバツツジがまとまってみられたが、この他、アセビ、ハイノキ、シキミといったシカの忌避植物がみられた。草本層においてもシカの忌避植物であるハイノキの実生がまとまって確認された(表-3-138)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で4科4種が確認されたが、生育する植物は疎らで、林床には植物が少ない状況であった。

表-3-137 毎木調査結果概要(プロットNo. 42301)

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径(cm)			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
	アカガシ	2	7		9	53.9	29.8	
コウヤマキ	1	12	1	14	67.4	31.1	8.1	32.0
ヒメシャラ	1	2		3	24.8	9.9		14.9
モミ	1	1		2	91.7	8.0		49.9
アセビ*		48	3	51		7.9	5.1	7.7
枯死不明		19		19		15.6		15.6
ツクシコバノミツバツツジ		12		12		12.5		12.5
ツクシシヤクナゲ		5	1	6		7.2	6.4	7.1
ベニドウダン		5		5		9.7		9.7
リョウブ		5		5		9.0		9.0
ブナ		4		4		22.5		22.5
ヤマグルマ		4		4		27.5		27.5
ハイノキ		3	1	4		7.1	5.6	6.7
イヌツゲ		3		3		10.6		10.6
コハウチワカエデ*		3		3		24.4		24.4
シキミ		3		3		7.1		7.1
イロハモミジ*		2		2		18.2		18.2
リウツギ		2		2		10.9		10.9
ツガ*		1	1	2		8.9	7.0	8.0
イヌシデ*		1		1		27.0		27.0
カマツカ		1		1		11.2		11.2
クマシデ*		1		1		23.7		23.7
シロモジ*		1		1		6.8		6.8
全体	5	145	7	157	58.3	14.1	6.0	15.1

※ ベニドウダン(シロドウダンを含む)

※ 網掛けは保護対象樹種

表-3-138 植生調査で確認された主な種

プロットNo.42301

●主な出現種と被度

低木層:50%		草本層:10%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
ツクシコバ/ミツハツツジ	2	ハイキ	1
アセビ	1	イヌツゲ	+
ハイノキ	1	ペニドウダン	+
シキミ	+	シクヤマコナ	+
かや	+	スゲSP	+



プロット概況写真(上段:北方向,下段:南方向)

■プロットNo. 42302

プロットNo. 42302は、矢筈岳の西向き斜面(標高1300m)に位置する。斜面傾斜は26度で、比較的緩傾斜な山腹平衡斜面となっている。

林冠には、保護対象樹種であるコウヤマキが優占する他、ブナ、ツガがみられた。亜高木層はシカの忌避植物であるアセビ、シキミが優占する他、ツクシアケボノツツジ、ヤマグルマが比較的多くみられた。低木層にも忌避植物のシキミ、アセビが多くみられた(表-3-139)。また、草本層にも忌避植物のツルシキミがみられ、シカの食害による影響が伺えた(表-3-140)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で4科5種が確認されたが、生育する植物は疎らで、林床には植物が少ない状況であった。

表-3-139 毎木調査結果概要(プロットNo. 42302)

プロットNo.42302

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
コウヤマキ	14	2		16	47.2	17.5		43.5
ブナ	6	3		9	39.7	27.9		35.8
ツガ	2			2	35.6			35.6
枯死不明	1	3	2	6	45.4	17.1	5.4	17.9
アセビ		22	11	33		11.0	7.0	9.6
シキミ		15	14	29		11.6	6.8	9.3
ツクシアケボノツツジ		8	1	9		13.7	6.4	12.9
ヤマグルマ		5		5		13.5		13.5
コハウチワカエテ		4		4		22.3		22.3
ベニドウダン		4		4		13.1		13.1
シロモン		3	6	9		8.1	5.9	6.6
クマシテ		3		3		13.0		13.0
ノリウツギ		3		3		15.1		15.1
アカガシ		1		1		10.0		10.0
イヌツギ		1		1		31.2		31.2
エコノキ		1		1		13.4		13.4
ヒナウチワカエテ		1		1		7.0		7.0
ツクシヤクナゲ			4	4			7.1	7.1
ツクシコバノミツバツツジ			3	3			5.5	5.5
ネシギ			3	3			6.0	6.0
全体	23	79	44	146	44.2	13.6	6.5	16.3

※ ベニドウダン(シロドウダンを含む)

※ 網掛けは保護対象樹種

表-3-140 植生調査で確認された主な種

プロットNo.42302

●主な出現種と被度

低木層:10%		草本層:10%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
アセビ	1	ツルシキミ	1
シロモン	+	スゲSP	+
シキミ	+	コウヤマキ	+
ツクシヤクナゲ	+	コガクウツギ	+
ヤマグルマ	+	シキミ	+



プロット概況写真(上段:北方向, 下段:南方向)

(4) シカ被害調査結果

尾鈴山への登山道である一般的なルートにおいて、シカ被害状況の調査を実施した。当ルートは主として尾鈴山からの尾根続きにある南方の矢筈岳付近の尾根を通るルートである。調査ルートの標高は、1300～1340mで、延長は600mである。

ルート全体として食害の確認頻度は比較的少なかった。確認した被害では、リョウブの樹皮への食害で、保護対象樹種であるコウヤマキにも被害がわずかにみられた。草本類については、葉や茎への食痕はみられなかったが、全般に生育個体が少ないことや忌避植物が多くみられることから、草本類に対しては食害を受けた後の状態であると推察された。



被害状況(左上:リョウブ, 右上:ベニドウダン, 左中:コウヤマキ, 右中:モミ,
左下:ヤマグルマ)

(5) コウヤマキ調査結果

調査ラインの設置箇所は、林内にアセビが多く生育する斜面上部で、シカの食害の影響のためか、草本層は少ない状況であった。

調査の結果、表-3-141に示すとおり、成木2本、実生4個体のコウヤマキを確認した。成木、実生ともいずれの個体も生育状態は健全であったが、成木にはシカの摂食による剥皮が一部にみられた。

表-3-141 コウヤマキ調査結果

番号	樹種	胸高直径	樹高	枯損	剥皮	空洞	備考
666	コウヤマキ	43.7	11.6		○		健全
667	コウヤマキ	37.1	8.3		○		健全
	コウヤマキ	—	0.05				実生・健全
	コウヤマキ	—	0.05				実生・健全
	コウヤマキ	—	0.02				実生・健全
	コウヤマキ	—	0.03				実生・健全



調査ライン(斜面下部側)の林内状況

3-25. 掃部岳植物群落保護林

(1) 保護林の概要

掃部岳植物群落保護林は、宮崎県西都市、国富町、西米良村が接する市町村界に存在し、九州中央山地南部の掃部岳（1223m）の周辺に位置し、面積は626.83haである。当保護林は、「ブナ林の実質的南限としてヤブツバキクラスの森林内にかろうじて残存しており、学術的価値の高い多様な自然生態系を一体的に維持を図り、併せて森林施行、森林管理技術の発展、学術研究等にしする」ことを目的としている。

当保護林は、74～164年生の林分からなり、大部分を天然生林が占めている。保護林の周辺は、国有林では人工林の割合が高まり、特に北東部や南西部では人工林がパッチ状にかたまっている。掃部岳を通る稜線の北部及び西部の多くは民有地となっている。

(2) 調査項目および調査箇所

当保護林での調査項目および数量は表-3-141に示すとおりである。また、調査プロットおよびルート位置は、現地調査位置図(概略図)および同(詳細図)、シカ被害調査調査結果整理表(ルート図)に示すとおりである。

表-3-141 調査項目および数量

調査項目	数量
森林調査(毎木調査・植生調査)	8地点
植物相調査	8地点
シカ被害調査	3ルート

現地調査位置図 (概略図)

保護林名： 掃部岳植物群落保護林

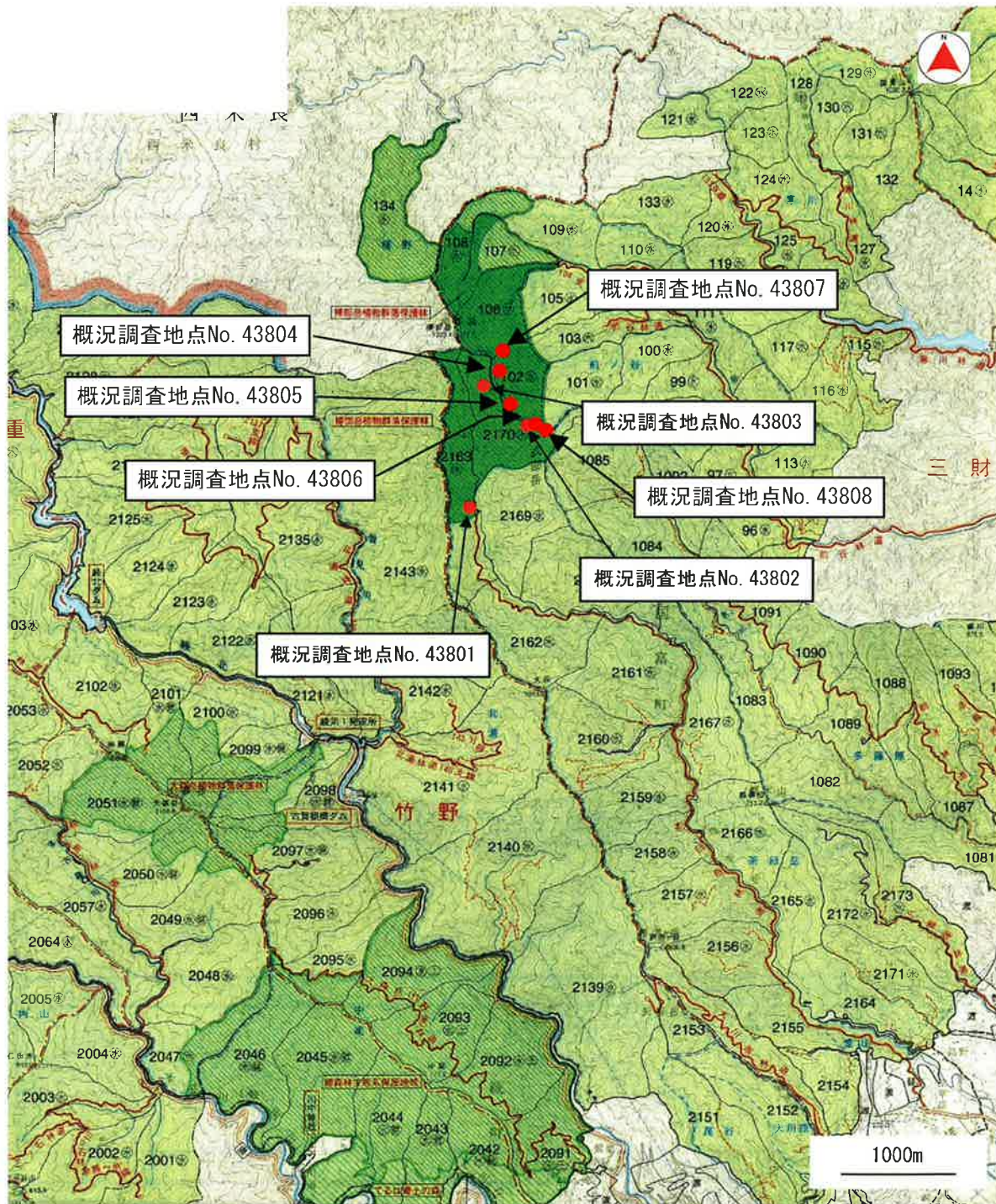
整理番号 植物-38

調査項目 森林調査

調査年月日 2010年10月22日～24日

調査地点： 43801～43803

概略位置図



保護林名：掃部岳植物群落保護林

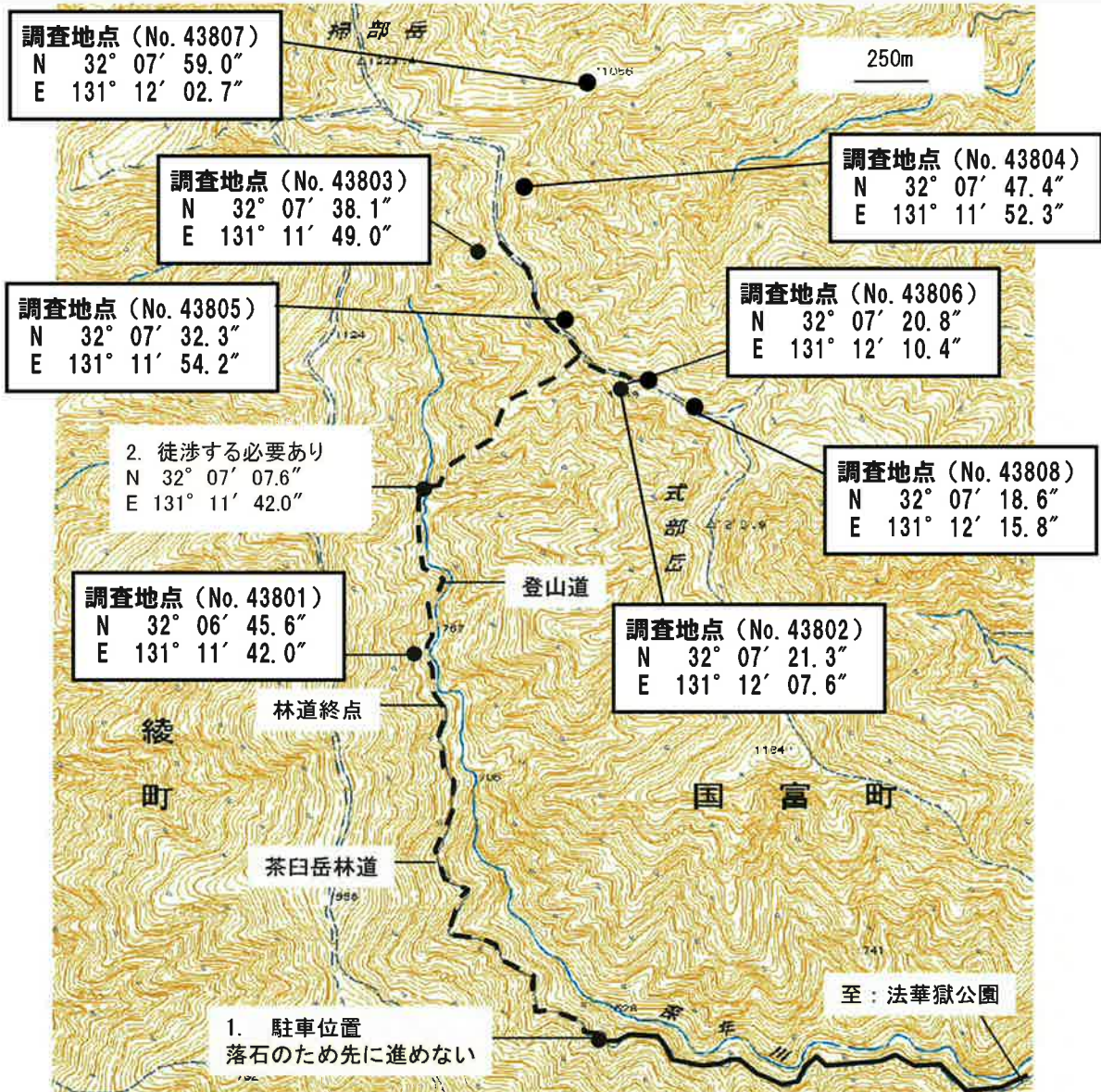
整理番号 植物-38

調査項目 森林調査

調査年月日 2010年10月22日～24日

調査地点：43801～43803

詳細位置図



1. 駐車位置

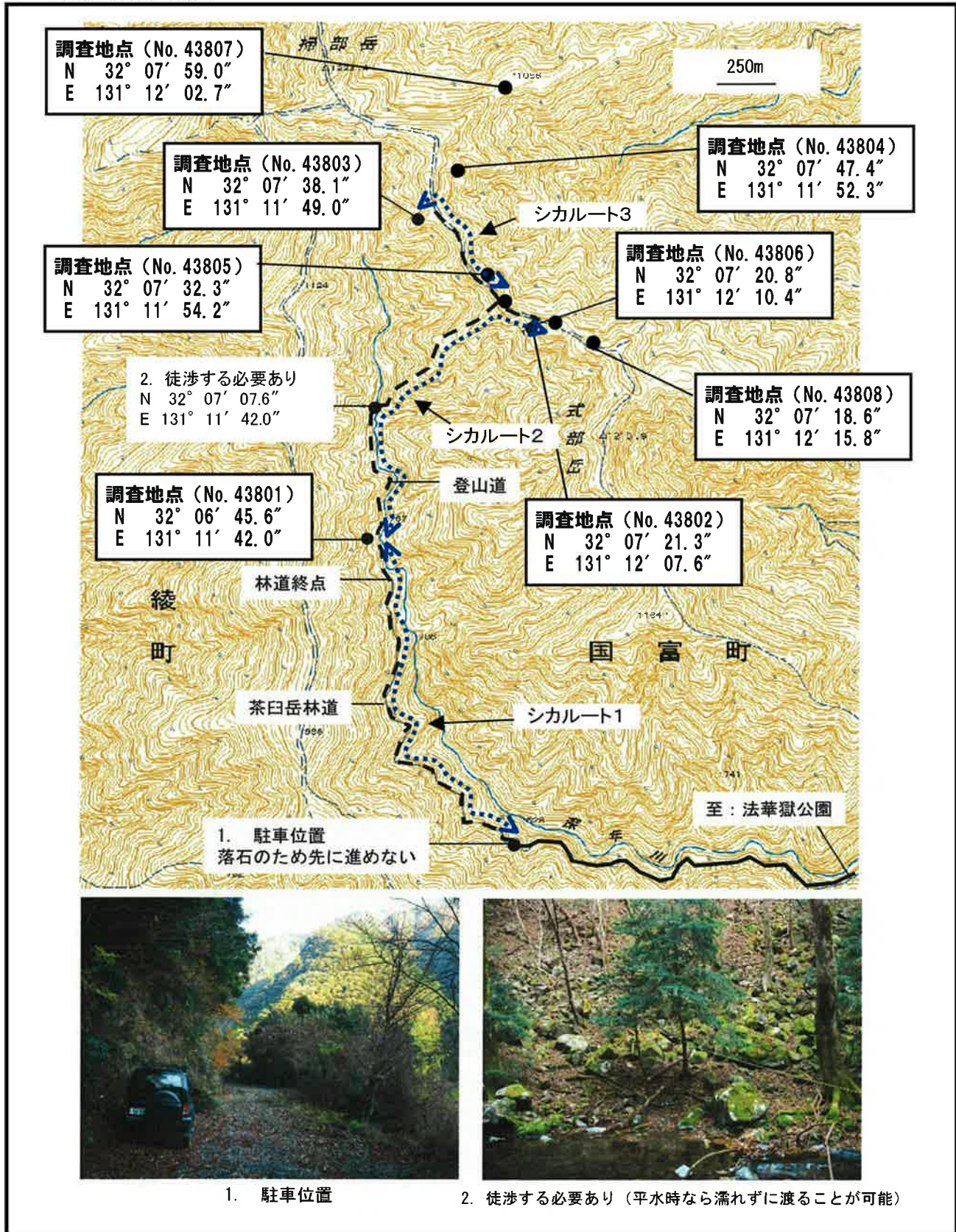


2. 徒渉する必要あり（平水時なら濡れずに渡ることが可能）

シカ被害調査 調査結果整理表

保護林名	掃部岳植物群落保護林	整理番号	植物-38
宮崎	森林管理署	法ヶ岳	森林事務所
ルート番号	1		
調査年月日	平成22年10月22日～24日		
ルート起点の緯度	32° 05' 59.3"	ルート終点の緯度	32° 06' 45.6"
経度	131° 12' 05.2"	経度	131° 11' 42.0"
ルートの距離	800 m		

ルート図(1/20,000程度)



1. 駐車位置

2. 徒渉する必要あり (平水時なら濡れずに渡ることが可能)

(3) 調査結果(毎木調査・植生調査・植物相調査)

①各プロットの概況

■プロットNo. 43801

プロットNo. 43801は、掃部岳南部の東向き斜面(標高780m)に位置する。斜面傾斜は37度で、比較的急な山腹平衡斜面となっている。

林冠には、シリブカガシ、アカシデが優占し、亜高木層にはシカの忌避植物であるハイノキが優占する他、アカシデ、ウラジロガシなどの中小径木が比較的多くみられた(表-3-142)。低木層にもシカの忌避植物であるシキミがややまとまってみられる他、同様に草本層にもシキミが比較的多くみられた(表-3-143)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で11科12種が確認されたが、確認される植物は疎らで、林床には植物が少ない状況であった。

表-3-142 毎木調査結果概要(プロットNo. 43801)

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径(cm)			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
シリブカガシ	15	4		19	26.8	9.9		23.2
アカシデ	9	11		20	22.8	11.0		16.3
ウラジロガシ	4	9		13	35.5	8.2		16.6
アカガシ	4	4		8	28.2	9.6		18.9
サクラSP	4	2		6	24.7	8.7		19.3
枯死不明	3	2		5	36.2	6.2		24.2
ケヤキ	2			2	46.3			46.3
イタヤカエデ	2			2	37.6			37.6
イヌシデ	1	3		4	35.1	8.7		15.3
ヤブニッケイ	1	1		2	21.6	6.1		13.9
ユズリハ	1	1		2	13.8	11.8		12.8
サカキ	1			1	24.2			24.2
カヤ	1			1	26.0			26.0
アサタ*	1			1	76.7			76.7
オオモミジ	1			1	31.0			31.0
ハイノキ		24		24		6.3		6.3
シキミ		11		11		6.8		6.8
ヤブツハキ		9		9		7.8		7.8
ヒメシヤラ		5		5		6.2		6.2
イヌガシ		3		3		7.6		7.6
ヒサカキ		2		2		8.7		8.7
エゴノキ		1		1		10.0		10.0
ヒナウチワカエデ		1		1		5.5		5.5
ホソバタブ		1		1		8.1		8.1
ツクバネガシ		1		1		16.3		16.3
ミスメ		1		1		8.7		8.7
ヤマサクラ		1		1		14.3		14.3
全体	50	97		147	29.3	8.0		15.3

表-3-143 植生調査で確認された主な種

プロットNo.43801

●主な出現種と被度

低木層:20%		草本層:10%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
シキミ	1	シキミ	1
イヌガシ	1	サカキ	1
ヒサカキ	+	イヌガシ	1
ヤブツバキ	+	テイカカスラ	+
ハイノキ	+	ヒサカキ	+



プロット概況写真(上段:北方向,下段:南方向)

■プロットNo. 43802

プロットNo. 43802は、掃部岳南東部の南西向き斜面(標高1100m)に位置する。斜面傾斜は42度で、比較的急な山腹平衡斜面となっている。

林冠には、アカガシが優占し、この他ヒメシヤラ、ブナ、ツガ等がみられた。亜高木層もアカガシが優占し、林冠と同様にヒメシヤラ、ブナが多くみられた。シカの忌避植物であるシキミもやや多くみられた(表-3-144)。

低木層ではシカの忌避植物であるハイノキ、シキミが優占していた。草本層は防鹿柵の設置後に回復したとみられるコガクウツギの幼木・実生が優占している他、忌避植物のシキミもややまとまってみられた(表-3-145)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で12科13種が確認されたが、確認される植物は疎らで、林床には植物が少ない状況であった。

表-3-144 毎木調査結果概要(プロットNo. 43802)

プロットNo.43802

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
アカガシ	8	12	1	21	47.6	24.4	15.1	32.8
枯死不明	3	1		4	63.0	22.4		52.9
ヒメシヤラ	2	6		8	25.2	14.2		16.9
ブナ	2	2		4	29.9	19.2		24.5
ツガ	2			2	69.2			69.2
モミ	1	1		2	66.0	16.7		41.4
シキミ		2		2		9.1		9.1
ベニドウダン		1	1	2		10.1	6.9	8.5
エゴノキ		1		1		21.8		21.8
タンナサワフタギ		1		1		10.8		10.8
ウラジロミツハツツジ			1	1			7.3	7.3
全体	18	27	3	48	49.1	19.1	9.8	29.8

※ベニドウダン(シロドウダンを含む)

表-3-145 植生調査で確認された主な種

プロットNo.43802

●主な出現種と被度

低木層:60%		草本層:70%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
ハイノキ	3	コガクウツギ	3
シキミ	2	シキミ	2
ヒメシヤラ	1	ミヤマチトメ	1
ベニドウダン	+	タンナサワフタギ	1
タンナサワフタギ	+	ナガバモミジイチゴ	1

※ベニドウダン(シロドウダンを含む)



プロット概況写真(上段:北方向, 下段:南方向)

■プロットNo. 43803

プロットNo. 43803は、掃部岳南東部の北西向き斜面(標高1100m)に位置する。斜面傾斜は26度で、比較的緩傾斜な山腹平衡斜面となっている。

林冠には、ブナが優占し、この他アオハダ、アカガシが比較的多くみられた。亜高木層には、ウラジロミツバツツジが優占し、ヒメシャラやアオハダなども多くみられた(表-3-146)。

低木層ではヒメシャラ、ウラジロミツバツツジの他、忌避植物のシキミもややまとまってみられた。シカの忌避植物であるシロダモが比較的多くみられた。また、草本層は防鹿柵の設置後に回復したとみられるコガクウツギの幼木・実生が優占している他、ヒメシャラもややまとまってみられた(表-3-147)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で9科10種が確認されたが、確認される植物は疎らで、林床には植物が少ない状況であった。

表-3-146 毎木調査結果概要(プロットNo. 43803)

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
ブナ	10	2		12	49.5	19.5		44.5
アオハダ	2	7		9	33.7	15.5		19.5
アカガシ	2	4		6	27.9	36.5		33.6
ツガ	1			1	35.3			35.3
枯死不明	1			1	41.6			41.6
アサダ	1			1	37.0			37.0
ウラジロミツバツツジ		15	2	17		7.4	6.7	7.3
ヒメシャラ		8		8		12.4		12.4
アセビ		4		4		6.8		6.8
シキミ		3		3		9.8		9.8
コハウチワカエデ		2		2		14.1		14.1
ツクシコバノミツバツツジ		2		2		7.4		7.4
カマツカ		1		1		9.1		9.1
ヤブツバキ		1		1		13.6		13.6
ハウチワカエデ		1		1		26.9		26.9
全体	17	50	2	69	43.1	13.1	6.7	20.3

表-3-147 植生調査で確認された主な種

プロットNo.43803

●主な出現種と被度

低木層:50%		草本層:60%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
ヒメシャラ	3	コガクウツギ	3
ウラジロミツバツツジ	2	ヒメシャラ	1
シキミ	1	シガシラ	+
タンナサワタギ	+	ヒメヤマスミレ	+
ハイノキ	+	ヒメトメ	+



プロット概況写真(上段:北方向, 下段:南方向)

■プロットNo. 43804

プロットNo. 43804は、掃部岳南東部の北東向き斜面(標高1140m)に位置する。斜面傾斜は22度で、比較的緩傾斜な山腹平衡斜面となっている。

林冠には、常緑針葉樹のモミのほかアカガシが優占し、亜高木層にはシカの忌避植物であるシキミ、アセビが優占していた。亜高木層には、この他、アカガシや同じくアカガシ、ブナなどの次世代の林冠を構成する樹種の中小径木が比較的多くみられた(表-3-148)。

低木層ではシカの忌避植物であるアセビ、ハイノキが優占していた。草本層もシカの忌避植物であるハイノキ、アセビ、シキミが多くみられた(表-3-149)。

これらの調査のほかに、当プロット周辺の植物相調査で2科2種が確認されたが、生育する新たな植物はほとんどなく、林床は非常に単調な状況であった。

表-3-148 毎木調査結果概要(プロットNo. 43804)

プロットNo.43804

種名	階層別本数(本)				階層別平均胸高直径			
	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	計	樹高≥10m	10m>樹高≥5m	5m>樹高	全体
モミ	9	8		17	36.6	20.5		29.0
アカガシ	8	26		34	40.9	18.1		23.4
ツガ	1	3		4	57.1	16.3		26.5
カヤ	1			1	31.2			31.2
シキミ		36		36		9.3		9.3
アセビ		19	2	21		11.8	10.6	11.7
ブナ		11		11		14.5		14.5
ハイノキ		7	1	8		7.7	8.6	7.8
ヒメシャラ		3		3		7.6		7.6
枯死不明		3		3		12.8		12.8
ヤブツバキ		3		3		13.1		13.1
コハウチワカエデ		2		2		17.1		17.1
アカシデ		2		2		7.1		7.1
イヌシデ		1		1		8.3		8.3
エコノキ		1		1		6.0		6.0
リョウブ		1		1		10.4		10.4
ソヨゴ		1		1		7.0		7.0
アオハダ		1		1		5.2		5.2
全体	19	128	3	150	39.2	12.8	9.9	16.1

※網掛けは保護対象樹種

表-3-149 植生調査で確認された主な種

プロットNo.43804

●主な出現種と被度

低木層:60%		草本層:30%	
主な出現種	被度	主な出現種	被度
アセビ	3	ハイノキ	3
ハイノキ	1	シキミ	2
		アセビ	1
		モミ	+
		ヒサカキ	+



プロット概況写真(上段:北方向,下段:南方向)